

# 新たな交流施設の誕生と被災地などの話題

このコーナーでは電源地域各地の地域振興に向けた話題を取り上げています。今回は新たな交流施設の誕生に湧く玄海町や桜の名所として知られる富岡町の話、東京都内各地で開かれた地域製品の販売促進イベントを紹介します。



## エ ネルギーのまち・玄海町に新たな交流施設が誕生

佐賀県東松浦郡玄海町に、待望の「玄海町次世代エネルギーパーク あすぴあ」が7月20日(土)にオープンする。

これは、経済産業省が全国で進める「次世代エネルギーパーク事業」において第1期認定(平成19年度)を受けたものだ。

すでに48箇所が認定を受けているが、単独の施設としては、全国でも最大規模である。

基本的なコンセプトは「地域資源の有効活用による交流人口の増進」、「エネルギー資源利用にあたっての環境配慮」、「体験型エネルギー環境

教育による次世代エネルギーの普及啓発」の3つで、町は平成20年度以降、計画・設計を進めてきた。町の北部、玄海原子力発電所の「玄海エネルギーパーク」に隣接するよう整備された。パークの中心となる「あすぴあ館」は地上4階建て、延べ床面積2,597.5㎡の広さで、太陽光などの再生可能エネルギーを体感できる施設だ。館内は展示室や体験工房、セ

ミナールームなどに分かれており、1階から4階までを貫くガラスの煙突のような「ソーラーチムニー」がひととき目を引く。これは、太陽エネルギーを利用して空調の負荷を軽減するものだ。春から初夏また秋口の気温が上がる時期は、暖かい空気が上昇する性質を利用して館内の空気を屋外に排出する。冬季は軒先から取り入れた外気を太陽熱で暖める「ソーラールーフ」から、暖かい空気が館内に送り込まれる。

また、「アースラボ」や、「次世代交通展示室」も注目の設備。「アースラボ」は、昆虫になった自分の分身を動かして町内の4つのエリアを回るバーチャルツアーが楽しめるもの。「次世代交通展示室」では、水素を燃料とした燃料電池を利用して走る「あすぴあーずカー」など、交通の未来を実体験できる。なかでも、園内を走るロードトレインは、屋根に太陽光パネルを乗せバッテリーを充電しながら走り、車内モニターで充電量を見ることが出来る。「ふれあい農園」は、玄海町を代表する景観の「棚

田」が再現されている。岸本英雄玄海町長はオープンにあたり、「あすぴあ」にはエネルギーの知恵や工夫が集められています。町の内外から、たくさんの子どもたちに来ていただき、大事なエネルギー

### 玄海町次世代エネルギーパーク あすぴあ

〒847-1441 佐賀県東松浦郡玄海町大字今村4560-1  
☎0955-51-3080  
【URL】www.asupia.com/

(左)「あすぴあ館」の全景。中央の塔のような建物が「ソーラーチムニー」

(左下)「次世代交通展示室」には水素や太陽光を動力として、実際に運転できる乗り物が用意される

(下)展示室は社会科見学の配慮が様々になされている





バスの中より桜並木を鑑賞

「このことをいっしょに考えてもらいたいと思います」と期待を寄せる。このように「あすぴあ」は、次世代エネルギーを体感する「学びの場」であると同時に、自然や暮らしを楽

## 故郷の春を求めて「桜の集い」を開催

毎年、富岡町に春の訪れを告げ、人々に元氣と勇氣を与えてきた夜の森の桜並木。

故郷への想いを忘れず町民同士の結束を固めてもらおうと、4月20日(土)・21日(日)、「富岡町桜の集い2013」が広野町中央体育館をメイン会場として開催され、両日合わせて約500名が参加した。

しむことができる「交流の場」でもある。玄海町の新たな交流拠点の誕生は、全国からの注目を集めることになりそう。

福島県富岡町



開会式で遠藤勝也町長が「富岡町の財産である夜の森の桜を見てもらい、町民の皆さんに元氣と夢と希望を持ってもらいたいとの想いから桜の集いを実施した」と挨拶した。

「これまで桜と町民は共生し、町は桜と共に発展してきた。将来、夜の森の桜のトネルの下で祭りを開催できるよう、町民の皆さんと手を取り合い、これからのまちづくりを行いたい」と想いが語られた。

会場では婦人会による豚汁が参加者に振る舞われたほか、「チーム富岡さくらYOSAKOI」による力強い演舞が披露され、イベントは盛り上がりを見せた。

また、警戒区域の見直しに伴い、立入が可能となった居住制限区域では桜の鑑賞が実施された。参加者はシャトルバスに乗り、バスの中からではあるものの、桜並木を鑑賞し、2年ぶりに故郷の「春」を感じていた。

## 首都圏で地域産品の販売促進イベントを開催

青森県むつ市・西目屋村／新潟県柏崎市

首都圏では一年を通じ、様々な地域の市町村が、様々な場を利用し、消費者向けの地域産品の売り込みを積極的に進めている。この5月には、いくつかの電源地域市町村関係の産品販売促進イベントが都内各地で開催された。

まず、大山ハッピーロード商店街(東京都板橋区)で5月18日(土)・19日(日)の両日、柏崎観光協会主催の「柏崎うまいものフェア」が、引き続き5月21日(火)・22日(水)に青森県西目屋村主催の「白神山地世界自然遺産登録20周年記念イベント」が開催された。

また、青森県むつ市は亀戸香取勝運商店街(東京都江東区)で5月26日(日)に「むつ市のうまいは日本一in 亀戸」むつとの遭遇」を昨年の春秋に引き続き開催。

各イベントとも「そのまちならではの特産品」が数多く並び、それらの産品を買い求めようと、多くの買物客で賑わいを見せていた。



柏崎の地酒の販売



西目屋村の「白神りんご」ジャム



亀戸香取勝運商店街内アンテナショップ「むつ下北」

